

令和4年度第1回草加市みんなでまちづくり会議

議 事 録

1 開催日時

令和4年5月30日（月）午後4時～午後6時

2 開催場所

草加市中央公民館 講座室

3 出席者

(1) 参加者 16名

(2) 進行 NPO法人ハンズオン埼玉：川田代表理事、生越副代表理事

(3) 事務局 みんなでまちづくり課：森田課長、巖上課長補佐、田沼主任、小西主事

(4) オブザーバー 都市計画課：二瓶係長、本吉主任

4 会議の議題

「SDGs（持続可能な開発）の視点から考える 2030年に向けた草加のまちづくり」

※ 全3回の第3回目

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者数

0人

7 会議の主な内容

○ みんなでまちづくり会議について みんなでまちづくり課

みんなでまちづくり会議は、草加市みんなでまちづくり自治基本条例第26条の規定により、まちづくり登録員で構成する会議を開催し、まちづくり計画の提案についての議論により、市民参画を実現する場として開催しています。

みんなでまちづくり会議には、①市民同士の話し合いから、市民同士の交流・連携を促進すること、②市からの発信・情報共有により、市民活動の活性化を図ること、③市民の皆様から協働の提案をいただき、その提案について考えることの3つの機能を有しています。

みんなでまちづくり会議は、この3つの機能を通じた市民自治とパートナーシップによるまちづくりにより、市民参画を実現する場となっています。

続いて、近年のみんなでまちづくり会議の状況についてです。昨年度は、新型コロナウイルスの影響で年4回の開催予定のうち、4月と1月の開催が中止となり、7月と11月の2回の開催となりました。そのため、今回のみんなでまちづくり会議では、昨年度のテーマである「SDGsの視点から考える2030年に向けた草加のまちづくり」について引き続き、議論いただきたいと思います。

また、みんなでまちづくり会議は、平成16年に草加市みんなでまちづくり自治基本条例が施行されてから開催されていますが、市民活動を取り巻く環境の変化により、いくつかの課題を抱えています。そのなかでも、近年の開催状況を見ると、市からの発信・情報共有の機能により主に開催されており、会議に参加しているまちづくり登録員は約170名の登録員のうち、10名前後にとどまっています。まちづくり登録員を対象に、会議に参加しない理由をアンケートしたところ、「関心のあるテーマがない」、「他の市民同士の議論の場や市との意見交換の場がある」、「一部の参加者しか発言せず、自分の意見が言いにくい」との意見をいただいたところです。

また、平成30年度から令和元年度に行われた、草加市みんなでまちづくり自治基本条例市民検証委員会からの検証報告では、時代に合った条例の運用が求められ、まちづくり登録員制度を含めたみんなでまちづくり会議の今後の方向性についても、①みんなでまちづくり会議以外で、各分野で市民の議論の場が設けられたことをこれまでの成果とし、まちづくり登録員制度を含めたみんなでまちづくり会議とその他の市民の議論の場を整理していくこと、②市側からの働きかけにより、ファシリテーション体制を構築し、市主導で新しい政策検討にあたり、関係する市民・団体から分野横断的に意見を収集する場として活用すること、とのご意見をいただいたところです。

こうした現状を踏まえ、みんなでまちづくり会議の本来の目的である市民参画の実現できる場として活性化していくために、専門的なファシリテーターの配置や継続して参加いただける企画を実施するとともに、より広く市民の皆様の意見を活かした政策形成につながるよう、みんなでまちづくり会議等と他制度の整理を検討します。

○ 本日の会議進行について NPO法人ハンズオン埼玉 生越副代表理事

前回のみんなでまちづくり会議が半年前であり、だいぶ時間がたってしまいました。したがって、本日は今までどんな話し合いをされてきたかを振り返りながら皆様と楽しみながら意見交換をできればと思っています。

早速ですが、資料の「SDGsの視点から考える草加のまちづくり」をご覧ください。

色々なところで、SDGsの文字を見ることが多くなりましたが、横文字ということもあり、まだ、日本の中には浸透していないところがあります。

今のままの生活を続けると、・エネルギーが枯渇する、・人口減少、・経済環境の変化等により今の生活が、2030年に持続できなくなるという予測がされています。日本にいるとなかなか危機的状況を感じることに難しいですが、今ここで、意識、生活を変えることにより、引き続き、みんなで暮らすことができるようになる。それに関して、ターゲットを絞ったり、行動指針を掲げ、みんなで行動していきましょうというのがSDGsです。

例えば、「貧困をなくしましょう」といった目標が17個並んでいます。それだけだと、ただのスローガンになってしまうので、「貧困をなくしましょう」ということに対して、細かく、「これをやってみよう」とか、「これも大切です」ということが書かれています。今は、本屋に行くとSDGsに関する書籍が出ていたり、インターネットで自由に見られる資料がいっぱいあります。例えば、YouTubeでも5分~10分で

解説しているものがあります。ぜひどれか一度見ていただくと雰囲気が分かると思います。

この会議自体は、草加のまちづくりについて、みんなで考えましょうという会議になります。SDGsの視点から、2030年の草加に思いをはせていただいて、どんな地域になってほしいか、自分たちがどういう暮らしをしていきたいかという視点でまちづくりを考えていき、①市民（私たち）ができること、②事業者（企業等）にできること、③市民団体ができること、または、④草加市でないとできないのでそれはお願いしたいなということをそれぞれ洗い出してもらい、次につなげていきたいと思いますというのが今回の会議の目的です。

この話をすると、2030年の草加市に、「住んでいるかわからない」、「自分が何をしているかわからない」、「こういった活動をしているかわからない」という方がいらっしやると思います。10年後というと難しいですが、もう少し身近な目標として、3、5年後を考えると、目標や計画がはっきりすると思います。

例えば、4つの丸をご覧くださいと、上が「行政」、右が「各個人」、下が「地域団体」（いわゆるNPO）、左が「企業」とか「事業者」がいます。それぞれに役割があり、それぞれに得意な分野があります。

子育てしやすい地域に草加がなってほしいなとか、いくつになっても暮らしやすい地域（たとえば、年をとっても、運転がなかなかできなくなっても暮らしやすい地域）にしたいなとか、そういう具体的な目標をこの4つの「行政」、「各個人」、「事業者」、「地域団体」なら何ができるかを考えます。子育ての例でいうと、行政としては子育て世帯を支える施策とか環境づくりを進めることができます。事業者としては、働き方の工夫等が企業のできるかなと思います。草加ではこれに取り組んでいる方もいると思います。空家や場を活用した憩いの場所作りとか、人が集える交流の場づくりに取り組んでいる方もいます。個人としては、そういった大それたことはできないよという人もいらっしやるかなと思いますが、情報を発信することはどなたでもできるかなと思います。それは口コミとか、今、流行りのインターネットを通じても構わないと思いますが、そこに子育ての情報があるよとか、この公園は行きやすいよとか、みんなで発信するといいかないと思います。

今日は、テーマごとにグループを分けて話を進めていきたいと思います。

自分は何ができるか、企業や行政には何を期待するかまで話し合いを進められればと思います。また、この話し合いをすること自体によって、参加された皆様同士が、こういった取り組みをやっている人がいるのだとか、この人とならばコラボレーションできるかなとか、そういった場になるためにも、活発に色々な意見交換できればと思います。

第1回目は、皆様にそれぞれどういった活動を草加でやっているか、草加のどういったところが課題だと思っているかを自由に発言していただきました。

第2回目（半年前）は、第1回目の皆様の発言を元に、私たちのほうでキーワードを抽出して、

- ・「安心して暮らせるまちづくり」（拠点づくりの話、少し福祉的な取り組みの話）について話すグループと、
- ・「草加を知る、伝える」（草加がどういったまちか草加の人にも知られていないのではないかと、それを伝える努力をしていないのではないかと）について話すグループに分かれて進めてみました。

ざっくりとしたテーマですが、本日は、その2つのグループのどちらが自分にとって話しやすいかでグループに分かれていただいたうえで、より話を進めていきたいと思っています。前回の意見を簡単に紹介します。
(令和3年度 第2回みんなでまちづくり会議の議事録を紹介)

○ 会議での共有事項

※①市民(私たち)ができること ②事業者(企業等)に期待したいこと、提案、アイデア ③市民活動、市民団体ができること 取り組んでみたいこと ④行政への提案、市民と行政が一緒になって取り組むとよいこと

■「安心して暮らせるまちづくり」グループ 進行役：NPO法人ハンズオン埼玉 川田代表理事

コロナ禍もあって、つながりたいけどつなげられておらず、分断されている。草加市の中でどうやって支え合っ
て暮らしていけるか。実践していることを話し合った。

その中で、行政に対しては「市民が活動しているのを支えてほしい」という意見があった。

例えば、「市広報に3か月前に依頼しても、コロナに関する大切な情報等が多いと、広報掲載が遅れてしま
う。」、「広報誌に載せるだけではなく、駅の掲示板を活用すると良い。」との意見もあった。「市民の情報発信
に関する環境づくり、人同士つながれる場づくりがほしい。」との話があった。

企業に対しても、拠点づくりの話があった。「いろいろな形でスペースを貸してほしい。」とか資金面の援助の
話があった。この会議には保健室の活動する方もいれば、司法書士さんもいて、個性的な方がいたので、すでにつ
ながりができた。2030年に向けて実践していただければよいなと思った。

参加者1：①住みよいまちにするためのふれ合い、助け合い(贈与)

②にぎわいのある町づくりへの協働(交換)

③楽しいイベント開催

まちの美化、防災活動

マッチング

④予算助成(広報活動)、まちスピーカー設置、カラー文書作成

行政区画の小規模化(半径200m?)

参加者2：①連携、各団体の方との協働

②子ども、親世代、子育て世代の居場所づくり

何をやるか(学習支援、相談、高齢者と孫世代、相互の相談)

③子どもに向けての楽しいイベント

親世代に対しての上映会(コンサート等)

④連携、一緒に取り組んでいただきたい

参加者3：①不登校、ひきこもり相談

家族のコミュニケーション

散歩

②スーパーにイトイン・コミュニティスペースを作してほしい

③相談ボランティアの養成

行政との連携

④子供の居場所を文化センター・会館に

冒険広場と連携

行政との連携

参加者4：①市広報を読むこと

携帯電話をマスターする

②伝右川沿いにベンチと自販機を設置してほしい

③SDGs目標に掲げる

④市内のエリア毎に多世代交流の場を設ける

参加者5：①高齢者を家から出すこと

②シングルマザーの仕事のできる環境づくり

③

④

参加者6：①お金はないけど、時間がありますので必要な方への寄り添いはできる

②空き空間を提供してほしい

③川辺のコンサート。あやせ川で行ったコンサートはフラッと来た方も楽しめてよかったのもう一度やってほしい。

④広報をしてほしい。小さい団体が企画して宣伝しても限りがあり実際には知らない人が多くいて残念でした。

参加者7：①美術、音楽、おどり等の会を通して一般の方、障がい者の方、老年の方、子供等が一つにまとまっていく。

②いままであった「ふらっと草加」のようないろいろな活動ができるような場所を再度作っていただきたい。

③イベントに多くの方が出席してもらい、精神障がい者は一般の方とかわらないということや三障がいの違いをわかってほしい（特に、政治家に）。

④精神障がい者の地域活動市民センターをつくる事で「いばしょ」をつくってもらいたい。障がい者が引きこもりにならないように。

参加者8：①歩くことを草加で推進する活動（環境づくり）の拡大

平均寿命ではなく健康寿命。さらに健脚寿命をめざす。

要介護の人も歩けるように（人間らしく）

②イベントに対する企業のスポンサー化など相互に有益になる活動（草加のアピール）

③ウォーキング活動が草加市としてモデルになるように

④スポーツ振興課、保健センター、図書館などと連携し活動を今後もサポートしてほしい。

参加者9：①LINE交換

②活動場所の提供

出資

③イベント

情報交換会

④イベントの後援

宣伝

参加者10：①興味のあることから小さく始める

②資金の援助と企業活動のサポート

両者が潤う仕組み

③行政ではできないチャレンジやスピード感。自分たちの思いの実現

④情報共有の仕組み

活動を支える仕組み

継続できる仕組みをつくる

参加者11：①歩いていて景観を変える取り組み

農商工それぞれの組み合わせ

外の人の目から見た取り組み、連携

提案できる動きにつなげる

②横並びではなく、各自の得意分野に草加市周辺の課題を適応させること

③産官が区民の連携の場づくり

④行政はサポートすることに耳を傾けること

つなぐ役割、支援すること

金銭的な支援

■「草加を知る・伝える」グループ 進行役：NPO法人ハンズオン埼玉 生越副代表理事

「子どもたちに草加のことを知ってもらおう」、「子どもたちに故郷を感じてもらおう」にはどうすればいいかという話があった。草加を知る資料はいっぱいあるようには思えるが、学校のほうからすると、まとまっていないという感想があるとのことであった。

「草加市に住んで何十年経っても、元から草加に住んでいないと故郷として感じられないのはなぜか。」という意見があった。「宿場町がある街だから、古くからいる方の意見が強い。」、「一方で、少しずつ変わりつつある。」という意見もあった。

「イベントが多い、お祭りが多いというのが草加の特徴なのではないか。」という意見があった。「草加はいろいろな取り組みをやっている方々が多い地域だから、その方たちの力を地域にどう生かすか。」、「お祭りやイベントがあると、・人同士がコミュニケーションをとる、・事業者や行政に声をかける等、いろいろなきっかけが生まれる。それらを大切に。」という意見があった。

皆様に色々な意見を発表していただいたが、共通しているのは「情報の整理」についてであった。市民側からすると、どこにどのような情報があるのかが分からない。行政に期待したいということであった。

参加者12：①お祭り（イベント）の話が出たら積極的に参加しよう

年配者と若年者との交流を図ろう（会話する）

②コロナ過に負けず事業を成功させてください

お祭り（イベント）への協力をお願いします

③旧道のほこみち計画推進

歩行者利便増進道路の実現

安心して歩ける道路

オープンカフェ

コミュニティが感じられる道路に

④ふささら祭りを実施してください

歩行者利便増進道路実現に協力してください

参加者13：①ウォーキング、筋トレ等の指導

ウォーキング、筋トレ等のイベントの提案

②イベントへのスポンサー

ポール等の用具やイベント用トイレの寄付

従業員との交流

③市民イベントへのスタッフとしての寄与（企画、保安）

④情報収集（独居老人）

ウォーキング・交流イベントの広報

老人と若い人のコミュニケーション

参加者14：①まちの案内（昔の草加と今の草加、案外となごりがあったりする）

②工場見学、モノづくり体験

③まちづくりイベント、まつり

まちづくりの担い手になる（つなぐことは、市民団体にも得）

④安心して生活できるまち

交通公共交通の整備

市民と市民をつなぐ

くらしへの支援

参加者15：①子供を育てる、学校だけでなく地域と一緒に

地域に開かれた学校

クラブ活動を手伝う

②事業者としてもっと頼られたい

③クラブ活動へコーチ派遣

④市民と学生と事業者と行政と一緒にイベントできるようにしてほしい

参加者16：①子どもに体験を通じて草加を伝える

②コラボ

③コラボ

④事業・市民団体との窓口

広報（学校、市民へ）

○ 会議まとめ NPO法人ハンズオン埼玉

皆様の意見を進めようとする、今後は具体的な話になっていきます。

例えば、「安全に歩けるようにするには、車の規制が必要だ。」、「一つのイベントをやることに関してどうすれば実現できるか。」、「事業者が協力するにはどういうアプローチを仕掛ければいいのか。」等。

そういったことを、既に草加市で取り組んでいる団体がいて、それらを行政と話す審議会や協議会がかなりの数あります。「私は今後こういったテーマを掘り下げたい、取り組んでいきたい。」という方がいれば、みんなでまちづくり課に言ってもらえればつながることができるかなと思います。

皆様の意見の中から、一つを決めて行政にぶつけるということができれば良いかもしれないが、皆様にはそれぞれの現場があってそれぞれの関心があると思います。引き続き、まちづくり活動を個々で動いていく場面があると思いますが、その場面の中で、「そういえば、こんな会議でこんな人がいたな。」というのを後で思い出すためにも是非、名刺交換等の積極的な交流をしてもらえれば今後の活動に役立てるのかなと思います。

情報の一覧自体はどこかにあるが、どういう人かは顔が見えないとわからない。それだけにコロナがだいぶ人のつながりを分断させたということを危惧しています。つながりの場ってよく言われますが、直に会って話をして、互いに顔を合わせて初めてつながれるなと思いました。